

中国雲南省、ハニ族の伝統的宗教・信仰 —自然崇拜、祭祀儀礼の事例紹介— 季 瑞 穎

お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科修士課程

一、ハニ族の概況

ハニ族は中国の55の少数民族の一つで、ベトナムの54の少数民族の一つでもある。中国では、ハニ族は雲南省の西南部、紅河西側の哀牢山区にある元江、紅河、元陽、緑春、金平、江城、墨江、新平、鎮沅などの県に住んでいる。主要な経済の手段は農業で、棚田耕作技術は得意である。

二、ハニ族の自然崇拜

棚田の稲作を中心とする経済生活がハニ族の自然崇拜の意識を育ててきた。この意識が神霊を崇拜することに表われる。

春は種まきの祭り、初夏は田畑の祭り、盛夏はフダコノの祭り、収穫前の祭り、秋の収穫後の祭りなど、農耕の暦法に従って行われるいろいろな祭りがある。

また、村を開拓する時、必ず森林のある場所を選ぶ。ハニ族のすべての村には神林と神樹があり、それぞれ「風水林」と「寨神」と見なされ、決して損ねるようなことがあってはならないと考えられている。神林は聖地であり、神林の中に住んでいる神様は各領地内のハニ族の民を守り、自然を破壊する人や神様に不敬の人を罰すると信じている。牛・羊・豚・犬・鶏などを犠牲にして神様を祭ることは、ハニ族の生活の重要な一部である。毎年「10月年祭り」の頃に、村の安定と保護を願って寨神に祈りを捧げる。神林の中でば、祭祀を行う以外に、狩猟、伐採などのことは厳禁、一旦、犯したら、神様を怒らせ、村全体が悪運に見舞われる。その時は、伝統的な祭礼を行い、家畜を犠牲にし、お供えし、神様に贖罪しなければならない。

三、ハニ族の暦法

ハニ族は長い間の自然観察に基づき民族固有の暦法を創造し、自然生物気象の変化によって農事、祭祀及び家庭生活の段取りをつける。

ハニ族の「四季生産歌」によるとハニ族の暦法の基本的な内容は、自然生物気象の輪廻周期を一年として、月の満ち欠け輪廻周期を月として、十二支で年、月、日を名付ける。その推算方法は、旧暦十月を年頭とし、ハニ族は十月を虎月と名付ける。従って、月の順番は虎から始め、虎・兎・竜・蛇・馬・羊・猿・鶏・犬・猪・鼠・牛となる。日の順番は鼠から始め、即ち鼠・牛・虎・兎・竜・蛇・馬・羊・猿・鶏・犬・猪であり、13日をつ一つの輪とする。一年は12ヶ月、一ヶ月は30日、一年は360日、残りの5、6日間をお正月の日とする。自然生物気象の変化によって一年を三段階に区切る。即ち「窩巴拉(オハラ)」(乾季:旧暦の2、3、4、5月)、「惹巴拉(ルハラ)」(雨季:旧暦の6、7、8、9月)、「从巴拉(ツンハラ)」(寒冷な季節:旧暦の10、11、12、1月)である。

ハニ族の暦法は自然生物気象変化に基づき作られているので、棚田の農耕活動の段取りは、植物の変化と動物の出没、渡り鳥の飛び立つ時期や飛来する時期に密接に関係している。

四、ハニ族の棚田

2013年6月に雲南省南部の哀牢山脈に広がる「紅河ハニ棚田文化景観」が世界遺産として登録された。「紅河ハニ棚田文化景観」は稲作文化の奇跡と見なされた5つの理由がある。

- (一) 段が多いこと。坂の斜面に連続と連なる畑は、3000段以上に及ぶ。
- (二) 規模が大きいこと。紅河南岸の紅河、元陽、緑春、金平等のいくつかの県に及んでいる。棚田が最も集中する地区の元陽県の棚田の面積だけでも、20万ムー(1ムーは6.667アール)に達する。
- (三) 歴史が長いこと。この地の棚田は、控えめに見ても500年以上の歴史を有するという。
- (四) 景色が美しいこと。棚田と一体化した山や雲海、日の出と夕暮れ、また山村風景などが、独自の美しさを見せる。
- (五) 深みがあること。棚田は人文景観が自然景観と融合したものであるとして、海外から訪れる人々に「大地の芸術」と称えられている。

五、ハニ族の祭り

ハニ族の祭りは自然崇拜の信仰から生まれ、行事などはほとんどが棚田の農作にかかわる。その時期は農作の節気交替期にあたり、節気及び農作のプロセスを提示する。ハニ族の祭りは数え切れないほど多い、その中、最も重要な祭りは「昂瑪突祭り」、「十月年祭り」、「六月年祭り」という三つの祭りである。

昂瑪突祭り

「寨神」を祭ること。旧暦の12月の初め頃、農閑期が終わり、春の耕作が始まることを示す。この日、人々は穀物の種を蒔き、稲の苗を育てる。また黄色に染めたもち米と赤く染めた卵を苗代に供える。カッコウに春の到来を伝えさせ、田植えの節気を知らせてくれる天の神様に感謝する。同時に、来年収穫する稲が黄色のもち米のように金色になり、赤い卵のようにふっくらするようにという気持ちも込められている。

十月年祭り

「十月年祭り」は年末年始の印であり、旧暦十月の初めての龍日をお正月としている。この祭日の主題は、豊作を祝い、祖先とともに収穫を楽しむことである。さらにみんなで掃除したり、もちをついたり、祖先を祀ったりする活動も含まれる。旧年に別れ新年を迎える大切なお祭りである。

六月年祭り

旧暦の6月24日ごろの夏から秋への変り目で、秋の取り入れの農繁期に入ることを示す。各の村で牛を殺して天、地、山、村の神様を祭って、磨秋やブランコに乗ったり、踊ったり、詩歌を歌ったりなどする。主に天の神様とお米の神様を祭る。

伝説によると、ハニ族の人々が棚田のあぜをつくるとき、アリやミミズなど虫たちを排除してしまった。追い出された虫たちが天の神様に告げ口すると、神様はそれに答え、虫を殺した人は罰として天に投げる、と約束した。また同時に神様は勤労なハニ族を同情し、それで、ハニ族の人々に磨秋やブランコに乗って遊ぶことで、虫たちに罰を受けたかのように見せかけてごまかすようということである。

長街宴

元陽県では「昂瑪突祭り」、緑春県、紅河県では豊作を祝う「十月年祭り」のときに、ハニ族のすべての村をあげて長街宴（長い通りにずらりと並べる宴席）を開く。

小さい村はいくつかの村が一緒になり、大きい村は2、3カ所に分けられる。2、3日がかかりで、宴席の主人役は順番に回ってゆく。主人役になった家々の人々は、それぞれ得意料理を作る。誰よりもおいしい料理をたっぷりと作ることによって、その家の人の面目が立つ。どの家も、まずごちそうを並べたテーブルを祭司の家まで運び。すべてのテーブルを{いちもんじ}一文字につなげて並べ、長いもので7、80メートルほど、100メートル以上並べることもある。遠くから見ると、長い竜のようである。一堂に会した村中の老若男女は、それぞれ自由に席について飲み食いする。途中、祭司の音頭にあわせ、ハニ族に古くから伝わる「飲酒歌」を合唱する。

参考資料

- ・「ハニ族の稲作文化の奇跡雲南・元陽県のハニ族の棚田」人民中国
http://www.peopleschina.com/zhuanti/2008-04/23/content_111724.htm
- ・黄紹文、尹紹亭（2011）「中国雲南省哀牢山地に於けるハニ族の伝統的な棚田農耕生態 文化及びひぞの変遷」
- ・李維宝 鮑夢賢（2006）「哈尼族三大节日溯源」国家天文台台刊 第3巻 第1期
- ・（2016）「ハニ族(哈尼族)主な祝日、お祭り」旅情中国
<https://www.chinaviki.com/china-culture/festival/yizu/9620.html>

写真記録は、ヒマラヤ学誌第13号に掲載された「中国雲南省哀牢山地に於けるハニ族の伝統的な棚田農耕生態 文化及びひぞの変遷」（黄紹文、尹紹亭（2011））p190を転載した。（前田栄三）